



1. 設計趣旨

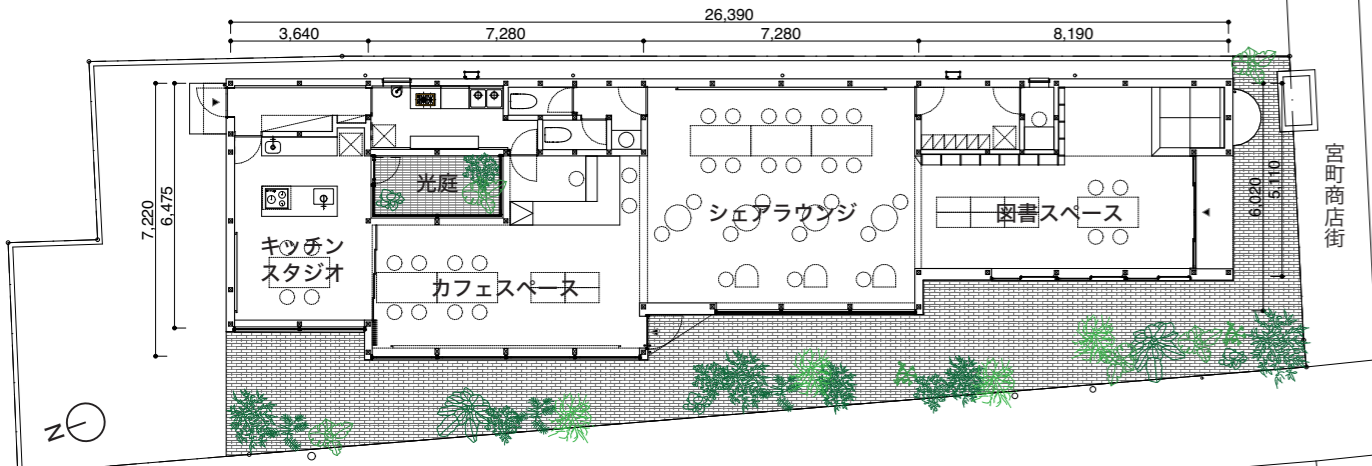
「商店街にピオトープのような場をつくりたい」。施主から語られたこの言葉をきっかけに、衰退する商店街に対し、多様な活動が混ざり合う関係性の空間をつくり、公共性と商業性が連続する地域拠点を目指したプロジェクトである。金属加工・職人の街である新潟県燕市の中心に位置する宮町商店街は、アーケード撤去を機に衰退が進んだ一方、近年は若者や企業の流入により再生の兆しが生まれている。本計画は、図書館、シェアラウンジ、カフェ、レンタルキッチンスタジオの4つの用途からなる複合施設である。それぞれの機能を明確に分断するのではなく、公共性の高い図書館から、シェアラウンジ、カフェ、キッチンへと、奥に進むにつれて商業性やプライバシー性が高まるグラデーションをつかった。燕市内企業による出資、若手デザイナーによる運営とディレクションをはじめ、地域に深いつながりと想いを持つ人々によって実現した。

2. 配置図 S=1/2000



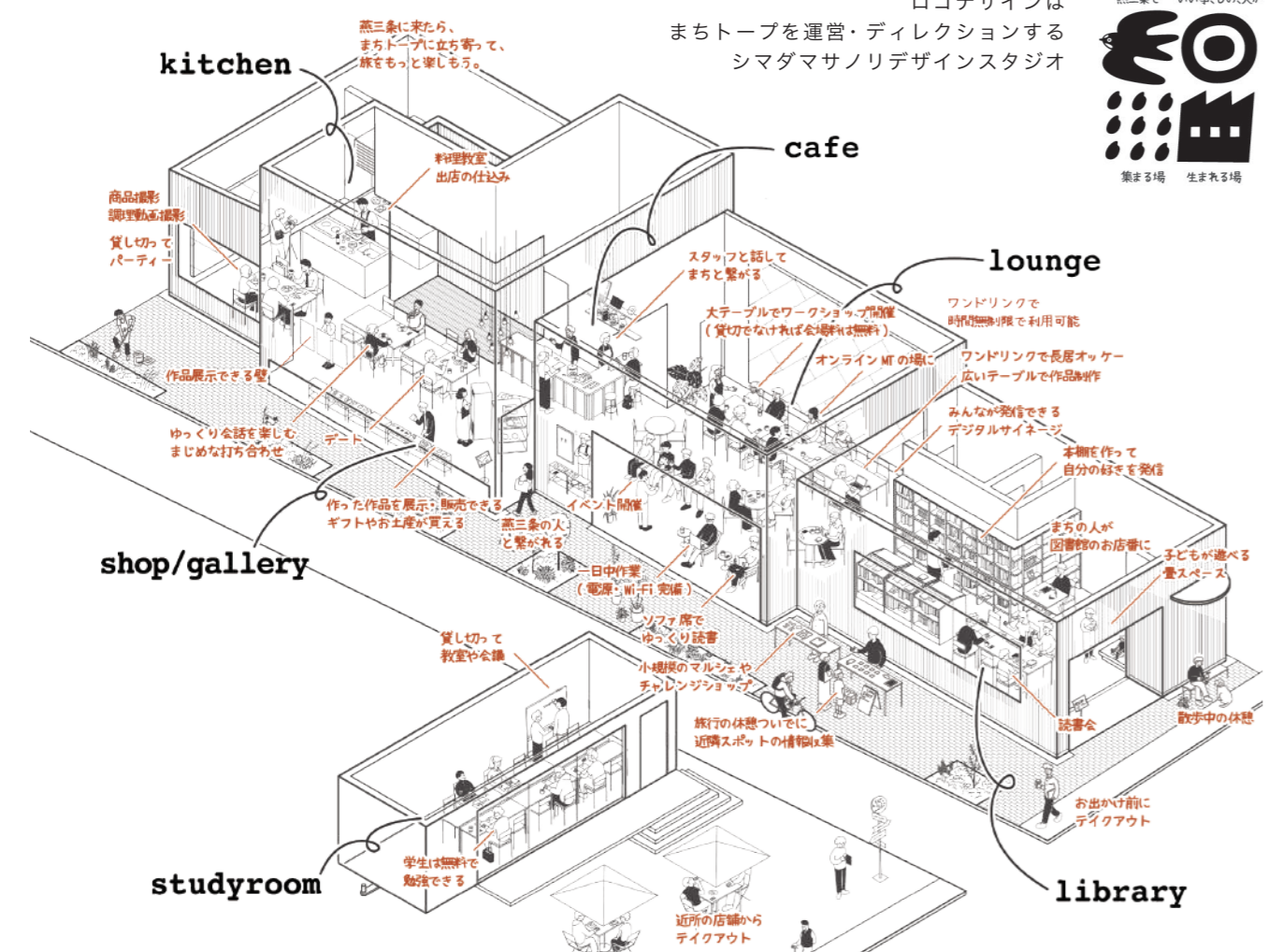
設計者である私自身も燕市出身であり、このまちで育ち、変わりゆく宮町商店街の風景を見てきた一人である。大学での卒業制作（2014年）では、この商店街を対象に、地場産業と連動しながら新旧が補完し合う関係性を築くグランドプランを構想していた。そうした経緯から、この場所に対する思いを共有する設計者として声をかけてもらい、本計画に関わることとなった。

3. 平面図 S=1/200



各エリアは天井高さやボリュームを変え、垂れ壁や雁行配置によって視線や空間のつながりを調整している。斜め張りした構造用合板の壁や移動可能な家具・照明により、使い手が空間を再構成できる柔軟性を持たせた。角地という立地を活かし、西側道路に面した長手方向も新たなファサードとして位置づけ、植栽と舗装でアプローチをデザインした。

4. ダイアグラム まちトープの日常



民営民営でありながら公共性の高い施設として注目され県内外から多くの視察者が訪れている



シェアラウンジ：商店街周辺に暮らす人、燕市の金属加工品を求めてきた観光客、あらゆる世代の人たちがまちトープに集まる。多様な関係性や営みが少しずつ根づきながら、この場所は、宮町商店街の環境の一部として育ちはじめた。



燕三条らしいモチーフを使って地域拠点施設が目指すべき姿を表現



図書館「ぶくぶく」：まちトープのメインエントランス



光庭：カフェで使うハーブの栽培

カフェスペース：各空間に設けた構造用合板の壁面は、ギャラリーやインフォメーションボード



キッチンスペース：レンタルキッチンや料理教室、燕三条産キッチン用品等の撮影スタジオ



建物正面：ボリュームを抑えた立面計画



切妻：異なる天井高さやパラペット傾斜をもつ4つのボリューム